

市長から市民のみなさんへ

67

山陽小野田市長 白井 博文

山陽市民病院の診療休止について

2 ページからの記事にありますように小野田市民病院への統合に伴い、山陽市民病院の診療が3月中に休止されます。長きにわたってご愛顧いただいた山陽地区のみなさんに休止によりご不便をおかけすることについてはお詫び申し上げます。入院患者さんの転院についても、ご本人、ご家族の意向を最大限に尊重しながら、行ってきたつもりですが、多大なるご迷惑をおかけしたことはありません。また、通院でご利用の患者さんにもこれから不自由をおかけすることでしょう。そういったみなさんのご理解、ご協力をいただいたおかげで今回の診察休止という決断を推し進めることが出来ました。改めて感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

1月に山陽市民病院の事業を引き継いでいただける内科系の病院・有床診療所を公募したところ、3件の応募がありました。今後、選定委員会での慎重な協議を経て移譲先が決定し、同じ場所で医業が再開される見込みですが、それまでの代替措置として、小野田市民病院までの無料直行バスを走らせます。どうぞご利用ください。

一方で今回の統合は地域医療の問題を見直すきっかけともなりました。医師会、山口大学附属病院との連携について協議をはじめたばかりですが、「安全・安心のまちづくり」の実現の根幹に横たわるこの問題については、今後も積極的に検討を重ね"医療空白地域ゼロ"を目指し、救急患者の受け入れ態勢を含め、整備を図っていきたいと考えます。

20年度予算案は「夜明け前」予算

山陽市民病院についても一つ気がかりだったのが、約10億円ほど残った不良債務の精算でした。21年3月までの「第5次病院事業健全化計画」の途中での診療休止は、言ってみれば、支援を行っている国・県との間での約束を放棄したことになり、統合のためには10億円の返済は必須条件ともいえるものでした。頭の痛い問題ではありましたが、関係職員と知恵を絞り、市の"財布"すべてからお金をかき集めて、何とか資金繰りの目処が立ちそうです。まさに"総力戦"で乗り切るといったところです。

合併して3年、"双子の赤字"と言われていた「山陽オート」「市民病院」の問題によりやく終止符をうつことができそうです。一方で新市が背負った"大きな荷物"を片づけ、負債を拡大させないことに全力を注いできた3年間でもありました。"まちのかたち"が大きく変わりつつある山陽小野田市には、まだまだ数々の問題が残っていますが、以前に比べれば随分"身軽"になってきたような気がします。そこで、そのような中で迎える平成20年度予算案を、暗い夜を終え、明るい朝を迎えつつある現状に例えて、"夜明け前予算"と名付けました。市民のみなさんには、もう少しの辛抱をお願いすることになりますが、間もなく訪れるであろう、日の出(=曙)の時まで、何とか乗り切っていきたいと、昨今の今頃は感じ得なかった希望とともに強く決意しているところです。「辛抱して良かった」という声が聞かれはじめるような、そんな1年になるように職員みんなで力をあわせてがんばってまいります。

合併3周年記念 「市民ふれあいの集い」

明日を担う子どもとともに未来に羽ばたけ!



▲昨年の「市民ふれあいの集い」のようす

市では合併3周年を記念して、昨年に引き続き「市民ふれあいの集い」を開催します。今回の主役は、未来を担う"子どもたち"。元気いっぱいのステージが繰り広げられることでしょう。屋外バザーもご用意していますので、お誘い合わせのうえ、ご来場ください。【問い合わせ先】総務課 ☎ 82-1121

【とき】3月20日(祝) 10:00～14:00

【ところ】文化会館(JR厚狭駅新幹線口)

【内容】式典、アトラクション(太鼓や楽器の演奏、合唱、踊り、ミュージカル)屋外催物(ふるさと特産品や軽食のバザー、演芸、消防車体験試乗など:11時30分から)